

読書活動

弥栄中が大臣表彰

授業で図書館積極活用
自ら学ぶ姿勢養う



久保田章市市長に図書館利用の取り組みを報告する郷原正継校長（左から2人目）と羽柴千晴司書教諭

浜田

浜田市弥栄町木都賀の弥栄中学校が子どもの読書活動優秀実践校として、2017年度の文部科学大臣表彰を受けた。授業で図書館を積極的に活用し、生徒の学習意欲向上につなげている点が評価された。9日には、同校の教職員が同市殿町の市役所を訪れ、久保田章市市長に取り組みの成果を報告し、継続を誓った。

(佐々木一全)

同校は、15年度から市学校図書館活用教育研究指定校として、全科目の授業で図書館での調べ学習を導入している。宿題や日々の予習復習で図書館を利用する習慣が生徒に定着しているほか、生徒1人当たりの図書の出数も過去3年間、30〜40冊台で推移し、市内の中学生の平均（15冊）を大幅に上回っている。図書館を利用すること

で、生徒が自ら疑問を解消しようとする姿勢を養い、教員が生徒の興味を引く授業について考えるきっかけにもなっているという。

この日、同校の郷原正継校長(55)と羽柴千晴司書教諭(49)が市役所を訪問。説明を受けた久保田章市市長は「読書は全ての学習の基本だ。今後も取り組みによる成果を出し続け、ほかの中学校にも波及させてほしい」と期待を寄せた。

郷原校長は「子どもたちの力を伸ばすため、さらなる図書活用の充実に取り組みたい」と意欲を示した。県内の小中学校では同校のほか、法吉小学校(松江市)と六日市小学校(吉賀町)が受賞した。